

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、平成 26 年度からインターンシップや地域連携等に重点を置いた「地域産業連携重点型」工科高校として再出発した。「産業創造系」の再編 2 年目、製品開発専科とテキスタイルデザイン専科のカリキュラムがいよいよ始まる。産業創造系、機械系、電気系がもつ特徴を生かし、本校がこれまで培ってきた伝統と教育活動を踏まえ、ものづくり教育を中心とした工業教育を更に実践し、生徒の育成を図る。さらに、本校の工業教育の方向性についても議論し、改善を図っていく。

本校のミッション（使命）は、「地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えた、ものづくりのスペシャリストの育成」であり、『「地域の宝」となる！』というスローガン（標語）を掲げ、経済産業省が提唱する『社会人基礎力』の育成とともに、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。

なお、「めざす学校像」として、次の 5 点を挙げる。

- 1 国際的な工業人として人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と社会の基本的なルール・マナーを身に付けた、工業のスペシャリストを育成する学校。
- 2 大阪府のリーディング・テクニカル・ハイスクール（LTH）として、府内の工科高校の先導的役割を担い、生徒・保護者・府民の信託に応える学校。
- 3 学校行事や部活動への積極的な参加を通して、礼儀正しい挨拶や規範意識などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校。
- 4 地域の「ものづくり教育」の発信源となり、地域に根ざし、保護者や地域から『地域の宝』と信頼される学校。
- 5 生徒から『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』と言われる学校。

## 2 中期的目標

## 1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進

- (1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。
- (2) 少人数授業や習熟度別授業等を導入（国語・数学・英語・体育・家庭）し、「わかる授業」・「楽しい授業」・「規律ある授業」をめざして、授業アンケート結果等も踏まえて、教員の授業力の向上を図る。
- (3) 授業公開・研究授業などを充実させて、授業内容や指導方法の改善を図る。授業公開週間を活用し、全教員が一度は授業見学に参加するよう指導する。

※授業公開週間を年 2 回実施、3 教科（国・数・英）の補習を 130 回以上  
 入学満足度を 60%以上、登校満足度を 55%以上、授業理解度を 70%以上目標とする。  
 （3 教科の補習：H26 182 回、H27 200 回）  
 （入学満足度：H26 60.8%、H27 58.6%）  
 （登校満足度：H26 54.4%、H27 53.5%）  
 （授業理解度：H26 69.2%、H27 66.8%）

## 2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進

- (1) 「平成 27 年度学校経営推進費事業」により導入した計測機器等を活用し、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。
- (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。
- (3) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させて、「わかる授業」の推進を図る。

※企業見学は 2 年生全員参加、資格取得者数を 750 名以上、インターンシップ参加者を 90 名以上、就職 1 次合格者を 75%以上で工科高校 3 位以内  
 （資格取得者数：H25 978 名、H26 858 名、H27 759 名）  
 （インターンシップ参加者：H25 52 名、H26 80 名、H27 106 名）  
 （就職 1 次合格率：H26 87.4%【工科高校第 1 位】、H27 83.9%【工科高校第 2 位】）

## 3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成

- (1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。
- (2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。
- (3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。
- (4) 生徒課題の早期発見と家庭との連携を深め、中途退学者の減少を図る。

※遅刻者数を前年度比 10%減、クラブ加入率を 50%以上、退学率を 2%未満  
 （遅刻者数：H25 1,516 名【前年度比 16.4%減】、H26 1,489 名【前年度比 1.8%減】、H27 948 名【前年度比 36.3%】）  
 （クラブ加入率：H25 41.7%、H26 44.6%、H27 50.6%）  
 （退学率：H25 1.22%、H26 2.46%、H27 1.63%）  
 （転退学者：H25 転学 13 名・退学 10 名、H26 転学 15 名・退学 20 名、H27 転学 30 名・退学 13 名）

## 4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり

- (1) 入試改革を踏まえた中学校訪問、離職率調査を踏まえた企業訪問を行う。
- (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。

※企業連携 15 社以上、離職率 35%未満、啓発活動・学校 P R を 8 回以上、中学校訪問数を 100 校以上、学校 Web ページの更新を 60 回以上  
 （中学校訪問：H26 115 校、H27 100 校）  
 （卒業後 3 年の離職率：H26 本校調査 [H23.3 卒] 35.1%、H27 本校調査 [H24.3 卒] 32.0%）  
 （学校 Web ページの更新：H26 74 回、H27 85 回）  
 （課題研究発表会の企業・中学・保護者等の来場者数：H25 47 名、H26 61 名、H27 59 名）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』の実現に向け、インターンシップや地域連携活動等に精力的に取り組んだ。「この学校へ入学して良かったと思う」が 64.5%で、昨年より 7 ポイント増加した。また、少人数展開を行い、基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導を推進した。普通教科の授業は分かりやすいという生徒が、昨年度は 4.3 ポイント増加し、さらに今年度は 4 ポイント増加しており、効果は表れている。</li> <li>・習熟度別授業の実施について、昨年度は 70.7%の教員が肯定し、本年度は 74.3%の教員が肯定している。方策を検討したい。</li> <li>・到達度の低い生徒に対する全校的取組みについて、昨年度は肯定 53.6%と低い値となっていた。本年度も 53.9%と低い値となった。基礎的・基本的な学力を身に付けるという観点から、対策を要する問題である。</li> <li>・家庭学習をしているのは 29.3%と低く、昨年比 1.7%減少している。家庭学習が低い状態の反面、資格・検定の取得に向けて努力しているが 50.2%で、前年比 5.4 ポイント増加した。実験・実習などへの評価は 78%の生徒が肯定的で 9 ポイント増加した。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートにおいては、学校の特色・家庭との連携・進路指導・生活指導の肯定が高い(約 80%)のに対して、授業が分かりやすい(56%)・家庭学習ができていない(35.2%)など、学習については低い数字となっている。</li> <li>・子どもとの意思疎通ができていないという問いに対する肯定は、昨年度は 3.5%増加し、さらに本年度は 0.9%増加の 86.8%となった。一方、担任以外にも気軽に相談できる先生がいるという問いは、昨年度は 2.8 ポイント増加し、さらに本年度は 3.8 ポイント増加したが 50.8%に留まった。カウンセリングマインドを持って生徒指導に当たることの意味を全教職員が再確認するとともに、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることも必要である。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の学校にはない特色がある、生徒指導は組織的に対応できているという問いには、ほとんどすべての教員が肯定的に回答しているが、本校の工業教育は現状のままでよいという問いには 58.6%の教員が否定的な回答であった。本校の工業教育をどのような方向に進めていくのか、今一度熟考すべき時期に来ている。</li> <li>・資格や検定取得、クラブ活動、ものづくりについては、ほとんどの教員がより活発に行うべきだと考えている。クラブ加入率やものづくり活動などにより積極的に取り組みたい。</li> <li>・生徒の個人情報に関する管理システムができていないことについては、昨年度は肯定が 43.9%で、本年度は 66.7%で 22.8 ポイント増加したが、教職員全体へのシステムの周知や習熟に関する研修の充実が課題である。</li> </ul>	<p><b>第 1 回 (6/27)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工科高校入試の定員割れについて <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・府立高校全体では 1 倍を超えているが、中学生の数は年々減少傾向にある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公私の生徒の割合が、かつては 70 : 30 であったが、現在は 65 : 35 くらいである。</li> <li>・工科高校魅力化推進プロジェクトを知事部局も参加して立ち上げた。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 中学校での職場体験と高校でのインターンシップの違いはあるか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・3 年間のキャリア教育の一環として、自分の就きたい職業や産業を踏まえた取組となっている。</li> </ul> </li> <li>○ 学校の実態を保護者にどの程度開示しているのか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・3 年生を対象にした進路説明会など、機会があるごとに色々な説明を行っている。</li> <li>佐野工科高校の受験につながるような広報活動をするというのでは。また入学を考えている生徒・保護者に伝わるというのと提言をいただいた。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>第 2 回 (10/20)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就職一次試験合格率について、工科高校 9 校中の 3 位以内の目標達成は？ <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・現在集計中である。(⇒87.8%で工科高校一位になった)</li> </ul> </li> <li>○ コンソーシアム事業についての委員の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・地域に密着し、ボランティア活動も含め生徒の向学のためにいろんな企業が応援している。年間を通してバラエティーに富んだ教育をしていることが伺え、学校として非常に頑張っていると思う。発明くふう展などにもどんどん取り組んで欲しい。</li> </ul> </li> <li>○ インターンシップ事業の協力企業数があまり増えていないが。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・昨年度より大幅に協力依頼を増やし約 60 社にアンケートを出したが、約 30 社からの協力にとどまった。企業が協力いただけるような校内体制の構築も必要と考えています。</li> </ul> </li> <li>○ いろんな賞を取ったことがもっと発信できるようにするといひ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・ホームページなどにもっと発信できるようにアップしていきたいと考えています。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>第 3 回 (2/23)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遅刻回数は少なく、数字的にはもう限界ではないでしょうか。生活指導部がよく頑張っていることと、進路指導の良好なところに現れています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・遅刻回数 1,000 件以下はかなり少ないです。H27 年度の遅刻数では、工科高校 3 位で、まだ減らせる余地はあります。</li> </ul> </li> <li>○ 女子生徒の制服のストラックスについて教えてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・自転車通学の生徒が多く、スカートでは危険という意見があり導入しました。</li> </ul> </li> <li>○ どのような企業に就職していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・現在求人数が多く、様々な業種からの求人があります。受験する企業は生徒が自由に選べますが、結果として製造業への就職が大半です。</li> </ul> </li> <li>○ 離職率の調査はどのように実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒・卒業後 3 年を経過した生徒全員に、本人あてと就職先あてに調査を行っています。</li> </ul> </li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進	<p>(1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。</p> <p>(2) 少人数授業や習熟度別授業等を導入し、「わかる授業」「楽しい授業」「規律ある授業」をめざして、授業アンケート結果等も踏まえて、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 授業公開・研究授業などを充実させて、授業内容や指導方法の改善を図る。</p> <p>(4) カウンセリングマインドを有し、生徒から気軽に相談しやすい教員の体制づくりをめざす。</p>	<p>(1) 基礎学力の定着に向けた、早朝学習と放課後の補習授業の実施。 ・遅刻・中抜け・無断早退等の根絶。 (指導カードの活用)</p> <p>(2) 少人数授業や習熟度別授業を行い、生徒一人ひとりに応じた指導をする。 (国語、数学、英語の3科目)</p> <p>(3) 授業見学や研究授業を組み入れた授業を実施し、授業力の向上を図る。 ・生徒の興味や関心を引き出し、学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した体験的な教材や指導法を研究・開発する。</p> <p>(4) 卒業後、社会人となるための職業指導を推進している結果、生徒指導は厳しくなるが、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行う。</p>	<p>(1) 3教科(国・数・英)の補習 130回以上 (H27 200回) 入学満足度 60%以上 (H27 58.6%)</p> <p>(2) 登校満足度 55%以上 (H27 53.5%) 授業理解度 70%以上 (H27 66.8%)</p> <p>(3) 授業見学会 2回以上 (H27 1回+個別実施) 全教員は最低1回以上授業見学を行う 若手教員の研究授業 4回以上 (H27 4回実施) 授業改善研修 2回以上 (H27 2回実施)</p> <p>(4) 教員の相談満足度 50%以上 (H27 48.7%)</p>	<p>(1) 3教科(国・数・英)の補習(○) 127回(国6数65英66) 入学満足度(◎) 64.9%</p> <p>(2) 登校満足度(◎) 62.3% 授業理解度(◎) 73.1%</p> <p>(3) 授業見学会(○) 2回実施 若手教員の研究授業(○) 新採4回・フォーアップ1回 授業改善研修(◎) ・教育産業テストの結果に基づき、生徒の学力動向を分析(校長・1回) ・授業アンケート結果についてカリ委、職員会議にて実施(4回)</p> <p>(4) 教員の相談満足度(○) 50.8%</p>
2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進	<p>(1) 「平成27年度学校経営推進費事業」により計測機器等を導入し、産業創造系を中心とした実習に活用するとともに、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。</p> <p>(2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。</p> <p>(3) 生徒情報の横断的な取扱いと情報管理の推進、校内の支援体制を充実させて、「わかる授業」の推進を図る。</p>	<p>(1) ものづくり教育を推進するため、実用新案権の学習とともに、機械加工技能士、電気工事士、色彩検定、情報処理能力検定などの資格取得に取り組む。 ・ものづくりに関する競技に積極的に参加出場する。</p> <p>(2) 学校設定科目である1年「キャリアプランニング」、2年「キャリア実現」を活用して、正しい職業観・勤労観や各種の職業に関する知識の理解を深め、進路の自己選択につなげる。 ・進路に関する講話などを計画的に行い、インターンシップや企業見学などで職業観・勤労観を育成し、進路選択の情報提供を充実させ、進路決定の意識を向上させる。</p> <p>(3) 各分掌や教科担当者と担任団が連携し、学習支援や相談機能を充実させ、「わかる授業」の確立と中途退学者の防止を図る。 ・校内の情報システムに関わる個人情報取扱い等の研修を実施する。 ・特別支援委員会を活用して、生徒の問題の早期発見と解決を図る。</p>	<p>(1) 資格取得者数 750名以上 (H27 759名) 近畿大会・全国大会入賞 マイコンカー近畿入賞 (H27 全国大会出場) エコデンカー全国入賞 (H27 全国第10位)</p> <p>(2) 三者面談 3回以上 (H27 3回実施) 進路講話 5回以上 (H27 5回実施) インターンシップ参加者 90名以上 (就職希望者1/2) (H27 106名) 就職1次合格率、工科高校の合格率順位 75%以上、工科3位以内 (H27 83.9%、第2位)</p> <p>(3) 教員研修 4回以上(個人情報研修含) (H27 3回実施) 個別の教育支援計画・指導計画の作成 支援に必要な生徒対象 (H27 9名作成)</p>	<p>(1) 資格取得者数 808名(○) 近畿大会・全国大会入賞 マイコンカー近畿8位・全国9位(◎) エコデンカー全国入賞 9位・全自研会長賞受賞(◎) EneoneGP4位入賞(◎)</p> <p>(2) 三者面談(○) 3回実施 進路講話(○) 6回実施 4/8一学期始業式 4/27生徒進路説明会 7/20一学期終業式 8/25二学期始業式 8/31受験前諸注意 12/22二学期終業式 インターンシップ参加者(◎) 118名(就職希望者156名) 就職1次合格率、工科高校の合格率順位 87.8%、第1位(◎)</p> <p>(3) 教員研修 6回(教務・生指・進路・校長・保健・個人情報)(◎) 個別の教育支援計画・指導計画の作成 支援に必要な生徒対象 13名作成(○)</p>
3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成	<p>(1) 家庭と連携した望ましい基本的な生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。</p> <p>(2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。</p> <p>(3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。</p> <p>(4) 生徒課題の早期発見と家庭との連携を深め、中途退学者の減少を図る。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立するために、担任団と生活指導部が連携し、学年別の生徒情報交換会で課題を抱える生徒の情報の共有化を図る。 ・校則遵守を徹底し、日常的に全教員が頭髪、服装、携帯電話等についての指導を行う。また、定期的に全校的な指導を実施し、規範意識の向上を図る。 ・日常的なHR担任による遅刻・欠席指導だけでなく、月初めの一週間「朝の校門指導」を実施する。</p> <p>(2) 中高連絡会に参加し、生徒情報の収集と活用に努める。 ・外部講師による講話など実施して、落ち着いた学習環境と他の人を尊重する心を養う。</p> <p>(3) 個々の生徒の特性に応じた部活動への加入を勧め、全学年において、教員と生徒のつながりを深めるとともに学校への愛着心を持たせる。</p> <p>(4) 課題を抱える生徒について、教員間で情報共有を行い、家庭との連携を密にして、育成に努める。</p>	<p>(1) 生徒情報交換会 全体2回、個別1回 (H27 2回以上実施) 指導件数 前年比10%減 (H27 8件8名) 全校集会 6回以上 (H27 9回) 遅刻回数 前年比10%減 (H27 948件、36.3%減)</p> <p>(2) 中高連絡会 7回以上 (H27 9回実施) 外部講師の講演会 3回以上 (H27 3回実施)</p> <p>(3) クラブ加入率 50%以上 (H27 50.6%)</p> <p>(4) 退学率 2%未満 (H27 1.63%)</p>	<p>(1) 生徒情報交換会(○) 全体2回、個別2回 指導件数(△) 11件19名 件数37.5%増 全校集会(○) 6回 遅刻回数(○) 861件 9.2%減</p> <p>(2) 中高連絡会(◎) 生指4回・保健人権5回 計9回 外部講師の講演会(◎) 6/1薬物乱用(2年) 6/15国際理解(2年) 6/29障がい者理解(1年) 10/26DV防止(3年) 11/30人権学習(平和と命の大切さ)(3年)</p> <p>(3) クラブ加入率(◎) 50.1%(394/786)</p> <p>(4) 退学率(△) 3.30%(26名)</p>

## 府立佐野工科高等学校

<p>4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり</p>	<p>(1)H28 入試を踏まえた中学校訪問、離職率調査を踏まえた企業訪問を行う。</p> <p>(2)「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。</p>	<p>(1)H28 入試結果（結果を踏まえた訪問地域の検討）とこれまでの学校実績から、中学校訪問を積極的に行い、塾への啓発も含めて学校PRに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職率調査の結果を踏まえ、今後の「キャリア教育」「職業教育」に生かすとともに、継続した離職率調査を実施する。</li> </ul> <p>(2)地域企業と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る（インターンシップを除く）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関や民間団体と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりの啓発活動や様々な時期に応じた学校PRを行い、学校 Web ページに情報発信する。</li> <li>・地域の企業や中学校の教員を招いて、学校全体で3年生の「課題研究発表会」を実施する。</li> </ul>	<p>(1)中学校訪問数 100校以上 (H27 100校) 企業訪問数 50社以上 (H27 55社) 離職率 35%未満 (H27 32.0%)</p> <p>(2)企業連携 15社以上 (H27 22社) 啓発活動・学校PR 8回以上 (H27 11回実施) 学校 Web ページの更新 60回以上 (H27 85回) 課題研究発表会 企業・中学・保護者等の 来場者数 10%増員 (H27 59名)</p>	<p>(1)中学校訪問数(○) 102校 企業訪問数(◎) 85社 離職率(◎) 30.7%</p> <p>(2)企業連携(○) 16社 啓発活動・学校PR(◎) 15回 学校 Web ページの更新(○) 83回 課題研究発表会(◎) 企業・中学・保護者等の 来場者数 92名 35.9%増</p>
---------------------------------------	---	---	---	---